

下関市立大学広報

2006年度入学式

～510名の新入生～

第45回下関市立大学入学式



4月8日、第45回入学式が下関文化会館で行われた。「青潮ゆたかに」の演奏に続いて堀内学長が、「今は大学ルネサンスの時代である。アジアに開かれた下関の歴史的・地理的メリットを生かし、学生・教職員がともに学びあう新しい大学を創りあげていこう」と祝辞を述べた。江島潔下関市長、小浜俊昭下関市議会議長（同副議長小山和氏代読）、学友会の祝辞に続いて学部新入生代表山本ゆかりさん、学部留学生代表宮湘臣君、特別聴講学生（交換留学生）代表キャサリン・アンダーソンさん、科目等履修生代表ブラザーバン・スィナーラット君、大学院新入生代表小林太一さんがそれぞれ誓いの言葉を述べた。例年どおりアナウンス研究会の学生が進行を務め、吹奏楽部が祝典演奏、応援団がエールを披露して学生・教職員が一体となった本学の良さをアピール、式典終了後は市民会館ロビーに待機していた在学生が新入部員の勧誘競争をにぎやかにくりひろげていた。また昨年度に引き続き、午後には保護者説明会が本学キャンパスで行われた。入学式と説明会で会場が異なるという変則的なかたちとなったが、約100名の保護者が出席、カリキュラムや就職支援体制などの説明に熱心に聞き入っていた。

今年度の入学生は学部学生が経済学科226名、国際商学科267名、計493名（うち外国人留学生10名）、それに3年次編入学生が17名加わった。また、特別聴講学生として青島大（中国）、東義大（韓国）、クィーンズランド大（オーストラリア）から計7名、科目等履修生として4名が1年間学ぶ。また大学院には留学生を含めて10名が入学した。学部学生の出身高校は本誌第3面の通りで、西日本を中心に全国から新入生が集まっているさまがうかがえる。

新入生歓迎行事、今年も多彩に

今年度も多彩な新入生歓迎行事が行われた。入学式前日には生協学生委員会主催の新入生歓迎会が開かれ、新入生約350名が参加した。在学生を交えての交流会、学内探索ツアーなどを通じて友達作りの第一歩を踏み出した。

また4月28日には留学生歓迎会が開かれた。新入、在学の留学生とともに堀内学長をはじめ、市内の留学生支援団体関係者を含む多数が参加し、盛況であった。5月10日には体育会主催の新人歓迎会が開かれた。今年度は例年にもまして多くの新入生が体育系サークルに入部、会場は終始熱気にあふれていた。

大学基準協会の正会員に

本学は、2005年1月に大学基準協会の加盟判定審査を申請していたが、評価の結果、大学基準に適合していると認定され、2006年4月1日付で正会員として加盟・登録を承認された。認定の期間は2011年3月31日まで。

また、2003年の学校教育法の改正によって、日本のすべての大学は文部科学省の認証する評価機関によって定期的な評価を受けることが義務化されているが、今回の大学基準協会への加盟によって、同時にこの認証評価を受ける義務を果たしたことになる。

創立50周年の節目にこのような認証評価を得たことは、今後の本学の発展にとって大きな意味があると言ってよい。

大学基準協会による評価の内容は、近々「下関市立大学点検評価報告書（認証評価版）」として刊行され、これに基づいたシンポジウムの開催が予定されている。

（西田雅弘）

大学基準協会正会員証

下関市立大学 蔵

貴大学は平成17年度加盟判定審査の結果本協会の大学基準に適合しているものと認められたのでここに貴大学を正会員として認定する

平成18年4月1日

財団法人 大学基準協会
会長 白井克



第41回卒業式

3月25日、第41回卒業式が行われた。体育館建て替え工事中のため会場は下関市民会館となり、経済学科(209名)総代藤本初美さん、国際商学科(247名)総代西米香里さん、大学院経済学研究科(6名)総代若林大祐さんにそれぞれ学士(経済学)、学士(商学)、修士(経済学)の学位記が堀内隆治学長から手渡された。堀内学長、江島潔下関市長などの祝辞に続いて、本学学生の実験成果を掲載する『赤馬』第28号に特に優れた論文を寄稿した松岡美帆さん(櫻木ゼミ)に優秀赤馬賞が授与された。卒業生を代表して中村遼太君(学部卒業生)、孟宝偉君(学部留学生)、熊谷和磨さん(大学院修了生)が出発(たびだち)の言葉を述べた。その後、吹奏楽部の演奏と応援団のエールによって卒業生の前送を祝して閉式となった。式の後には海峡メッセ下関で卒業祝賀パーティが華やいだ雰囲気の中で開かれた。



大学院の修士号6名に授与

2005年度は秋学期に6名の修了者を選び、3月21日に修士論文発表会を開催した。2000年度開設以来、これまでに合計40名、専攻別では経済社会システム専攻16名、国際ビジネスコミュニケーション専攻24名、年度別では2001年度10名、2002年度2名、2003年度11名、2004年度11名、2005年度6名が修士号を取得したことになる。修了者はそれぞれビジネス界に巣立っていった。なお2005年度の修了者の論文タイトルは以下の通りである。

◎経済社会システム専攻

- ・最近の自治体再編成に関する研究
- ・合併を選択しない自治体を中心に

◎国際ビジネスコミュニケーション専攻

- ・外資に対する中国小売業開放政策に関する研究
- ・見えざる資産とバランス・スコアカード
- ・日本と中国のコンビニエンス・ストア発展の比較研究
- ・松下電器の成長と戦略—松下幸之助を中心に—
- ・中国の観光産業と旅行社の経営

(大学院研究科長 吉津直樹)

就職状況

平成18年3月末の就職内定率は男子96.1%、女子92.3%、全体で94.6%であった。前年度実績と比較すれば、全体で、過去10年間で一番高かった前年度をさらに0.4%上回った。

一方就職を希望しない者で、大学院進学者は本学大学院を含め、13名であった。その他に、留学や専門学校に入

学進学する者等が目立って多くなってきている。なお、本学の就職内定率は大学の就職率として、かなり高く、就職実績として、各方面より高い評価を得ている。

◎平成18年度採用環境

平成18年度は、日本の景気が回復傾向にあるといわれる中、雇用環境は、市町村公務員の採用をはじめ、依然として厳しい。その中で、金融機関への就職が卸売・小売業と並んで大幅に伸びている。

採用活動の自由化(採用活動時期・内定時期・採用方法)は一層進展して、就職協定廃止後10年目となり、採用活動の前倒し傾向が強まっている。企業の採用活動方法は、合同説明会、大学への求人情報や、インターネット等、多様だが、特色としては、有能な即戦力を求める傾向が強まり、通年・中途採用を実施する企業が増加したことや、企業が人材を選別する目は一層厳しくなっていることがあげられる。また、企業概要をHPに載せるだけでなく、エントリーシートの請求やエントリーそのものをネット上で受け付けるなど、インターネットを採用活動に使用する企業が益々増加している。

◎平成18年度就職委員

就職委員長	森	幸弘	教授
就職副委員長	西戸	隆義	助教授
就職委員	濱田	英嗣	教授
就職委員	鈴木	陽一	助教授
就職委員	関野	秀明	講師
就職委員	白川	春子	講師
就職委員	植田	泰史	事務局長
就職委員	佐々木	幸則	管理課長
就職委員	國森	秀康	学生係長
就職委員	岡本	忠	学生係主事
就職委員	山本	香菜	学生係主事
就職委員	中野	武志	就職相談室長
就職委員	堂下	邦江	就職相談員

「公立大学法人下関市立大学」へ

来年4月の発足に向けて、市と大学とで法人化の準備作業が進められている。法人組織や大学運営などの重要事項は、山村副市長を委員長とする法人化準備委員会(計8名、このうち大学から学長を含めて3名が出席)で審議・決定されるが、これまでに3回開催され、財産移管の仕方のほか、次の2点が決まった。1) 法人の正式名称を「公立大学法人下関市立大学」とすること、2) 理事長と学長を別に置くこと。この決定に基づいて、目下、法人の定款の作成、中期目標の策定などの作業に取り組んでいるところである。今後は、新学科構想や教育改善の方策などを含めて、法人化後6年間の中期計画の策定等に取り組むことになる。(米田昇平)

創立50周年

下関市立大学は今年創立50周年を迎える。本学は下関商業短期大学(夜間制)を前身に、1962年4月に開学したが、短期大学の設立が1956年4月のことであるので、短期大学時代を含めて、50周年となるのである。

この創立50周年を記念して、式典、祝賀会などの記念事業が企画されるほか、数年前から編纂作業を進めてきた『市大50年のあゆみ』(仮称)の発行も計画されている。また本学学会が編集・発行している『下関市立大学論集』も50周年を記念した号として発行される予定である。

入 試 状 況

2006 年度入学者選抜実施状況

一般選抜	前期日程	学 科 (募集人員)	志願者	受験者	合格者	入学者	実質 倍率
		経 済 (60)	307	283	84	67	3.4
公立大学中期日程 (旧C日程)		国際商 (60)	311	292	119	76	2.5
		経 済 (96)	1,719	1,003	327	93	3.1
		国際商 (96)	946	547	298	130	1.8
		経 済 (31)	70	70	31	30	2.3
推薦入学	全 国	国際商 (31)	62	61	32	32	1.9
		経 済 (33)	47	47	34	34	1.4
	地 域	国際商 (33)	24	24	20	20	1.2
		経 済 (5)	1	1	0	0	—
特別選抜	帰国子女、社会人、 中国引揚者等子女	国際商 (5)	3	3	1	1	2.0
		経 済(若干名)	11	11	8	2	1.4
	外国人留学生	国際商(若干名)	30	24	13	8	1.8
		経 済(10)	30	25	10	9	2.5
編入学	国際商学科	(10)	16	15	8	8	1.9
		経済社会システム専攻 (5)	3	3	3	2	1.0
大学院	国際ビジネスコミュニ ケーション専攻	(5)	11	10	8	8	1.2

2006 年度合格者出身校

[岩手] 盛岡第三 [福島] 白河旭 [栃木] 黒磯 [富山] 高岡西、南砺総合福野、呉羽 [石川] 野々市明倫 2、星稜 [福井] 羽水 2、大野、金津、武生東 [岐阜] 長良、大垣東、美濃加茂、高山西 [静岡] 清水南、焼津中央、静岡学園、浜松日体、藤枝明誠 [愛知] 東郷、阿久比、豊田北、豊田南 7、中部大学第一、名城大学附属、愛知産業大学三河 3 [三重] 松阪、川越 3、三重 [滋賀] 彦根東、水口東 4、国際情報、近江兄弟社、光泉 5 [京都] 洛北、朱雀、桂、宮津、網野、西京 3、西城陽 2、菟道 2、東山、京都橋 3 [大阪] 島本、高津、開明 2、履正社 2、上宮、大谷、四天王寺、啓光学園 [兵庫] 長田、鈴蘭台、神戸商業、柏原、明石南、明石西、加古川西、西脇、三木 2、姫路東、姫路西 4、姫路南、龍野 3、上郡、豊岡 2、生野、相生 3、西宮(市立) 2、姫路(市立) 3、明石清水、明石城西、伊川谷北、三田西陵、三田祥雲館 2、兵庫県播磨 2、東洋大姫路、日生学園第三、滝川第二 [奈良] 畝傍、五條、登美ヶ丘、育英西、西大和学園 [和歌山] 那賀、桐蔭 2、新宮、開智 4、近大附属和歌山 2 [鳥取] 鳥取東 2、鳥取西 3、八頭 3、倉吉東 7、米子東 2、米子西、米子南、鳥取中央育英 2 [島根] 安来 2、松江北、松江南 7、松江商業、三刀屋 4、平田 2、出雲 3、大社 2、大田、江津、浜田 5、益田 5、津和野、隠岐 2、松江東 [岡山] 岡山朝日、岡山操山 6、岡山大安寺 3、岡山芳泉 6、岡山南、倉敷青陵 5、倉敷天城 6、倉敷南 3、津山、津山東、児島(県立)、玉島(県立) 2、笠岡 6、笠岡商業、西大寺 2、井原 3、総社 2、高梁 3、瀬戸 8、勝山、落合 2、岡山一宮 3、倉敷古城池 2、玉野光南 2、総社南 2、山陽女子、就実、岡山学芸館 [広島] 広島大学附属、広島大学附属福山 2、広島国泰寺 4、広島皆実 3、海田 2、可部、廿日市 5、賀茂 3、五日市、安古市 7、広 4、呉宮原 2、呉三津田 2、尾道東 4、尾道北 8、尾道商業、三原 6、三原東、世羅 2、福山誠之館 9、府中 5、大門 6、西城紫水、三次、舟入 2、基町 3、広島商業(市立)、呉、高陽 2、広島井口 2、安芸府中 3、神辺旭 2、祇園北 4、沼田、安芸南、美鈴が丘、崇徳、山陽、安田女子 2、広島女学院、山陽女学園高等部 2、広島学院、広島城北 2、武田、盈進 3、福山暁の星女子、近大附属福山、如水館 3、近大附属東広島 5 [山口] 宇部工業高専、岩国 2、柳井 2、光 3、下松、徳山、防府 5、防府商業 3、山口 5、山口中央 2、宇部 3、宇部中央 2、小野田 2、厚狭

6、大嶺 2、田部 2、豊浦 9、長府 4、下関西、下関南 4、下関第一 3、下関工業、豊北 6、大津 2、萩、下関商業 13、防府西、新南陽、響 3、西京 4、華陵、高水、野田学園 3、宇部鴻城、慶進、宇部フロンティア大学付属香川 3、梅光女学院、早稲 4、下関短期大学付属 [徳島] 城東 3、城南、城北、徳島商業、富岡東 3、池田 2、徳島市立、城ノ内 3、徳島北 [香川] 高松商業 2、坂出、丸亀、高松第一、高松西、高松北、高松桜井、香川県大手前、香川誠陵 2 [愛媛] 三島、新居浜東、新居浜西 4、西条 2、今治西 3、今治北、松山東、松山西 2、松山南 4、松山北 3、松山商業 3、宇和島南、今治東、松山中央 2、済美平成 [高知] 安芸、高知追手前 3、高知南、土佐、土佐塾 2 [福岡] 豊津 4、京都 3、門司 3、大里 2、小倉南 5、小倉商業 2、小倉 2、小倉西、北九州、戸畑 6、若松 2、八幡 12、八幡南 7、東筑 2、宗像 6、新宮 3、福岡魁誠、香椎 3、福岡中央、城南 4、修猷館、糸島 2、久留米、山門、三池 3、大牟田北、八女、田川 6、東鷹 2、嘉穂 9、嘉穂東 3、鞍手 4、戸畑商業、北筑 11、春日、小倉東 5、中間、

光陵 3、筑前 5、香住丘 4、博多青松、ありあけ新世、敬愛、東筑紫学園 3、美萩野女子、近大附属福岡、福岡大学附属大濠、西南学院、博多女子、東福岡、福岡工業大学附属城東 4、福岡舞鶴 4、大牟田 2、明光学園 [佐賀] 佐賀北、唐津東 3、伊万里 7、小城 4、武雄、鹿島 7、三養基、神埼、白石 6、唐津商業、武雄青陵 2、致遠館 5、龍谷、佐賀清和 [長崎] 長崎東 2、長崎南 2、長崎北 3、佐世保南 4、佐世保北、佐世保西 4、大村、川棚、松浦 2、北松西、五島 2、壱岐、長崎北陽台 3、西陵 2、鎮西学院 [熊本] 済々黌、熊本、第二 2、熊本商業、荒尾、玉名 2、宇土、八代 3、人吉 2、天草 2、熊本北、東稜 3、文徳 6 [大分] 国東 2、別府鶴見丘 5、別府青山、大分上野丘 2、大分舞鶴 6、臼杵 2、佐伯鶴城 2、三重、竹田 3、日田、中津南 3、宇佐、大分豊府 7、大分東明 [宮崎] 延岡 3、日向、妻、宮崎大宮、宮崎南、福島、小林 3、飯野、宮崎北、宮崎学園、宮崎日本大学、鶴翔 4、宮崎第一 [鹿児島] 鶴丸、鹿児島中央 8、錦江湾、鹿児島南 2、指宿 3、枕崎、加世田 2、川辺、伊集院 6、川内 2、加治木 2、国分、志布志 2、串良商業、鹿屋 4、種子島 2、鹿児島玉龍 5、武岡台 4、樟南 4、出水中央 [沖縄] 普天間、那覇国際 [高等学校卒業程度認定試験] 1

24人の留学生が入学



新たに学部 21 名の留学生を迎えた。留学生が 10 人、姉妹校からの派遣学生が 7 名(青島大学 4 名、東義大学校 2 名、クィーンズランド大学 1 名)、科目等履修生が 4 名である。これにより今年度本学で学ぶ留学生は大学院も合わせて 68 名となった(中国 59 名、韓国 6 名、オーストラリア 1 名、トルコ 1 名、タイ 1 名)。

卒業論文合同報告会

2月18日(土)、昨年に引き続き'05年度卒業論文合同報告会が本学において開催された。今年度も昨年同様、学生たちの自主企画、自主運営でおこなわれた。池田・川本・木村・坂本・櫻木・関野・田中・道盛・山本・吉津の10ゼミから合計39名の4年生が、自ら主体的に取り組んできた卒業研究の成果を披露し、質疑応答に臨んだ。各人の持ち時間は質疑応答の時間まで入れて25分であった。会場も3教室を使用し、朝9時20分から昼食をはさんで午後4時までの長丁場であったが、昨年に比べて参加ゼミ数・発表者も多くなり、来場者数も約200名と盛況であった。内容的にも経済学関連のテーマにとどまらず、環境・福祉・教育・犯罪問題など多岐にわたっており、バラエティに富んだものとなった。

今年度の報告会において学生諸君が特に力をいれたのは、「開かれた大学」をモットーに多方面からの聴衆を招くということであった。そのために、広報のあり方を中心に数回にわたる会合を重ねて、ホームページを作成し、大学ホームページとリンク、開催ポスターの作成など広範な宣伝活動をおこなった。また、在学生だけでなく、企業関係者や高校生たちなどにも聴いてもらいたいとの思いから、下関商工会議所、下関21世紀協会、各高等学校担当教諭などの協力をえながら宣伝活動を展開し、その結果、昨年に比べ社会人の来場者が増えたことや、初めて高校生の来場もあったことなどが特筆に値する。

また、本学同窓会から資金的な支援を得られたことや、事務局が資料作成の援助、問合せ窓口となってくれるなど、大学全体として実施した催しとなったことは、大変意義深く、今後の報告会の指標を示すものとなった。



共同自主研究 2005年度の成果

学生による「共同自主研究」として単位認定されたのは、2005年度は次の6件であった。

- ・「下関周辺の竹林荒廃の現状と竹林整備への取組み活動に関する研究」(3年生、5名)
- ・「下関市における路面電車の歴史と将来のLRT等大量輸送路面交通機関導入の可能性について」(3年生4年生、5名)
- ・「地球温暖化防止への新しい交通政策のさまざまな試み」(3年生2年生、4名)
- ・「市民が日常生活で取り組める温暖化防止への実践について」(3年生、4名)
- ・「下関市における緑化推進活動の現状と課題」(3年生、4名)
- ・「イギリス帝国の植民地政策について」(3年生、2名)。

卒業論文の思い出

松岡 美帆
(2006年3月卒業)

卒業論文の内容は、古文書などでよく目にするもののある花押(サイン)に注目し、戦国毛利氏を例に挙げて、元就、隆元、元春、隆景の花押改変の順序・年次・理由等を独自に分析したものです。論文のテーマに花押を選択した一番のきっかけは、日本史Bの講義でした。私は3年生の時に受講したのですが、その時の内容が偶然にも古文書学の講義でした。その時講義にいらしていた先生が、福岡市博物館で日本中世史を担当されている堀本一繁先生でした。当時の私は、花押に関心はあるけれど、それに関する知識もなく参考書もまったく知らない状態でした。思い切って堀本先生に相談をしたところ、『花押を読む』という本を紹介していただきました。もしも先生にお声を掛けずに、そしてこの本と出会わなければ、私の卒業論文は別の題材になっていたかもしれません。

私は、就職活動を7月の中旬まで行っていたので、本腰を入れて卒業論文作成に取り掛かったのは8月中旬頃からでした。まず、収集した529点の花押を基に個別に年代別に分類、その数値データを作成しました。その後、細かい変化も見逃さずに変化の見られる花押を1つ1つ念入りに選定していきました。論文作成期間の半分以上がデータ及び図表の作成に追われ、本格的な執筆にいたるまでには3、4ヶ月かかりました。そのため、作成の進行ペースに焦りも感じましたし、オリジナルだからこそ限界を感じて行き詰ることも多々ありました。しかし、ゼミの櫻木先生や堀本先生に文献の紹介やアドバイス、御指導をいただき完成させることができました。完成後はその内容を『赤馬』第28号に投稿し、掲載ができませんでした。

そして卒業式では、「優秀赤馬賞」をいただくことができ、今も嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいです。これは忘れられない素敵な思い出となりました。

学生論集『赤馬』刊行・第28号は11編を掲載

市大学生論集『赤馬』第28号が刊行された。個人研究、共同研究合わせて11編の論文が掲載されている。掲載論文の題目は以下の通り(掲載順)。

- ・中世古文書における花押の変遷と役割—戦国毛利氏を例として—
- ・玩具業界再編にみるバンダイの動向—PPMモデルによる経営統合の考察—
- ・世界システム論に見るアメリカの負の連鎖
- ・ハンバーガー業界におけるブランド再活性化の展開—モスフードサービスの差別化—
- ・成熟期の即席麺市場における日清食品の経営—ブランド価値構造転換の推移を通して—
- ・消費行動の変化と製菓に見る市場細分化
- ・「社会事業」から辿る「内鮮融和」—下関昭和館と在日朝鮮人—
- ・女性のパートタイム労働に関する一考察—現状及び今後の課題—
- ・証券市場活性化策としての投資教育
- ・下関のコリアタウンの活性化へ—国内外コリアタウンの実績調査から—
- ・学生の卒業論文作成の実態について—下関市立大学を事例に—

なお、第3回優秀赤馬賞は、「中世古文書における花押の変遷と役割—戦国毛利氏を例として—」が受賞した。

オレゴン州ポートランド市での滞在

藪内 賢之



アメリカ・オレゴン州ポートランド市にあるポートランド州立大学、そこで昨年1年間を過ごした。ポートランドは、各種調査機関のアンケートで例年「最も住んでみたい都市」の上位で、そのほとんどが1位あるいは2位という位置付けであるという。緑が豊かで農作物も豊富に採れ、オレゴンワインやポートランド地ビールなどと

いった地元の産物を楽しむことが出来る。また、ウォータースポーツ、釣り、ゴルフ、スキー、スノーボードなどのアウトドアスポーツが気軽に楽しめる。これはポートランドの都市計画で自然の景観美と産業や住宅の開発のバランスが保たれていることによる。つまり、自然と人間の生活の場がバランスよく維持され、ダウンタウンの近くにも大自然が多く存在している。このため、昼休み、終業後あるいは休日に自然と触れ合うことが容易に出来るのである。ダウンタウン内も緑豊かであるが清掃され、常に清潔な環境が維持されている。このため、ポートランドでの生活が心地良く、人口が年々増加傾向にある。

ポートランド州立大学はダウンタウンの南端に位置している。キャンパスは門扉に囲われているわけでも、広大な敷地を有するわけでもないが木陰や草の上で横になり、読書、昼寝、友達との会話、スポーツなど各々の学生がキャンパスライフをエンジョイしている。そして、木やその周りに目を向けるとリスが人を恐れる様子もなく木から木へ移動していく。これがキャンパス内の様子である。

キャンパス内にあるアパートで生活していたため一日のほとんどをキャンパス内で過ごし、時折キャンパスの外まで足を伸ばすという生活を私は送っていた。共同で研究室を利用していた S.H.Park 教授 (Hanbat National University) とはテニス、食事、観光など行動を共にする機会が多かった。写真は Park 教授 (右の人物) と Multnomah Falls に出掛けたときのものである。それ以外の人も、ホームパーティなど交流が多くあった。

教会のボランティアグループ (FOCUS) は留学生や海外から訪れた研究員のために食事会、ピクニック、旅行、パーティなどを開催してくれた。それだけではなく、様々な支援活動も行っている。それ以上に彼らの異文化交流・コミュニケーションにおいて非常に大きな役割を果たしていた。FOCUS のメンバーとの交流は家庭的で温かく、心休まるものであり、常に多くの留学生が集まっていた。大学が提供できないきめ細かく温かいサービスを FOCUS に期待し、大学は FOCUS にオフィスを提供している。大学と FOCUS の間には非常に良い関係が成立しており、留学生は孤立することなく過ごすことが出来る。

アメリカ人は見知らぬ人に気さくに「How are you ?」と笑顔で声を掛け、どこにいても大きな声で笑って楽しんでいると言われている。アメリカで一年過ごして、その通りであると確認でき、「学ぶところが多い。」と実感した。

九州工業大学での国内研修

熊谷 美佐子



2005 年の秋学期に北九州市にある九州工業大学を受入先として国内研修の機会を得た。そこで以前小さな試みとしてやったみたトピックに繋がる non-native speakers (NNS) の言語使用について、pragmatic and socio-cultural dementions に関する問題を調べることにした。NS-NNS による会話場面での両者の発話をデータとし話題の選択と展開、repair、turn-taking を中心に NNS の話し方がどのような形であられるか見ていく。

当初予定の下関でのデータ収録が難しくなり日程を調整、その間関連資料などを読んでいたが、会話分析は間口の広い分野なので興味に引かれてつい横道に入ったりできりがない。大学図書館は3フロアから成りその一画を壁で仕切って製本雑誌用書庫を設けている。5層の作りなので天井が低く窓が少ないうえ照明も不十分でまさに蔵。エレベーターなし。関連雑誌は刊行年が古いものでも第1巻から揃っていて、狭く急な階段を昇り降りしてよく利用した。データは十分に取りたいのでもう暫く収録をする予定である。

国内研修を終えて

佐藤 隆



平成17年度10月1日より、3月31日まで東京大学大学院経済学研究科へ国内研修に行ってきた。東大は久しぶりに伺ったのであるが、近年は独立行政法人化によって、「金融教育研究センター」や「金融システム専攻」といった新しい時代のニーズに応えるために、様々なセンターや専攻学科の立ち上げが行われているようである。また、研究棟も14階建てという新築の立派なビルが建てられており、リニューアルがすすめられているようであった。

ところで、今回の研修での研究テーマは、「少子化問題及び環境問題に対する最適政策に関する研究」であった。これは、近年問題となっている少子化問題と環境問題とを同時に分析しようという意欲的な取り組みであった。科研の研究テーマとしても採用され、その研究の最終年度にあたるため、名古屋にいる共同研究者と共に、研修期間を有意義に過ごすことができた。研究内容としては、以下の通りである：少子化等で人口が減少すれば、消費や生産水準が減少することを通じて環境が良くなることは明らかであるが、逆に、親は子に対する利他主義にもとづいて出産選択を行うときに、子の期の環境水準からの影響を受けるだろうか？ 受けるという前提の下で、競争均衡においては、少子化がおきることを条件付きながら示した。すなわち環境水準の悪化と少子化現象が同時に起きる可能性があるのである。どこまで現実を捉えたモデルであるかは分からないが、今後は、さらに改良を加えていきたい。

退任教員挨拶

すばらしい「縁」に感謝!

衛 藤 吉 則



仏教や禅には、「縁」「一期一会」という趣のある意味深い言葉があります。これは決して表面的な事実関係をさすのではなく、私たちが生きていくうえで大切な意味を、「出会い」と「あいだがら」のうちに見出すような言葉です。私にとりまして、まさに、下関市立大学におけます5年間は、意義深い「縁」に生かされた日々でした。先生方や学生さん、そして職員の皆様に支えられ、知的で健やかな温かい空間に身を置くことができましたことに深く感謝申し上げます。本当に生涯忘れ得ぬ出会いとなりました。

また、教職履修の皆さんとは、より直接的な出会いをもつことができました。教育実習では、学生さんの不安や喜びをともに分かち合い、「先なる会」では教師をめざす学生さんたちと熱く語り合い、授業実践ではディベートを通して様々な発見と感動を得ることができました。皆さん、教育実習や就職に向けて頑張ってくださいね。

私の方は、この4月から、広島大学の応用倫理・哲学講座で教えるかたわら、倫理と、教育・平和・政治・経済・宗教との問題についてナショナリズム論を軸に研究しています。皆さんと折にふれて語り合ったナショナリズム問題の克服に生涯をかけてみたいと思っています。

「縁」は時空に拘わらず「意味の深み」でつながっています。皆様の益々のご活躍をお祈りするとともに、さらなる出会いを願いたいと思います。ありがとうございました。

新任教員挨拶

はじめまして

奥 野 佐矢子



4月より、広島から参りました。教職教養である教育原理・道德教育・教師論などを担当するとともに、教育実習指導に携わってまいります。

専門は教育哲学、そして道德教育の分野が中心です。理論面では、今日の多文化社会のなかで自我や主体などがどのように形成されるのか、確かなアイデンティティ形成が困難となった状況下においてそれに代わる新たな人間形成の可能性は何かといった課題を探究しています。同時に、この基礎理論的研究を教育の実践面に発展させたものとして、今日的な道德教育のあり方を考察、解明することも私の研究課題です。これらの研究課題をクリアすることの困難さについては、2000年にアメリカのミネソタ大学に留学、倫理発達センターに出入りしつつ現地の道德教育プロジェクトに関わる経験を通じて改めて痛感、以来模索の日々が続いています。

出身は関西、大学は広島である私にとって、こちら下関は初めての土地でしたが、こちんまりとした学内で先生方にも職員の方にも親切にいただき、学生さんたちとの距離も近く、充実した毎日を送らせていただいています。下関市民になった記念に海響館の年間フリーパスを購入、気が向いた時にイルカに会いに行くことも楽しみのひとつ

です。ご縁あってのこの大学、この土地との出会いを慈しみながら、教員として研究者として更なる研鑽をつんでゆきたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

新任の挨拶に代えて

杉 浦 勝 章



4月より地域政策論・経済統計の担当として本学に着任いたしました。3月までは福岡にある九州経済調査協会という地域シンクタンクで、福岡県の市町村合併推進構想や九州観光戦略など、地域政策の立案に関する調査研究を行っていました。大学・大学院時代

は、企業合併などの産業再編に伴って工場配置がどのように再編されるのか、またその再編に企業戦略や産業政策がどのような影響を与えるのかを研究していました。大げさに言えば、理論と実証の両方の側面から研究を行ってきたわけで、今後の教育・研究にこの経験を活かしていければと考えています。

生まれは兵庫県の西宮市で、甲子園球場のすぐそばのところでした。その後、奈良県を経て、中学・高校と神戸市で過ごしました。神戸は、ここ下関と同様、海との関わりが深い街です。研究室に座しているときに汽笛の音が聞こえてくると懐かしさを覚えます。下関市民となってまだ日は浅いのですが、自然・生活環境のよさに加えて、大学の諸先生方や事務の方々に親切に接していただき、この地に馴染んできているところです。地域政策を専門としていますので、下関地域の発展にも貢献できるよう努力していきたいと思っています。

まだまだ若輩者でご迷惑をおかけするかと存じますが、精一杯がんばって参りますので、ご指導を賜りますようお願いいたします。

はじめまして

金 婷



今年4月1日付けで青島大学から派遣された金婷と申します。これから中国語講師として、市大の先生の皆様と一緒に1年間、お仕事させていただくことになりました。

日本に来るのは初めてですが、学校の先生から一般の市民の方々に至るまでとても親切にいただいたお陰で、自分が外国にいることを感じていません。

私の研究テーマは、対外中国語教育方法、教材の編纂及び中国語検定試験研究です。教育方法としては、教室での直接教育方法を取り、学生に極力話しかけて、できるだけ多く中国語を練習できる環境を構築する努力をしています。

また、現代的な教育手段を使って、より直感的で、より効果的な学習環境を提供したいと思っています。

新任の教員なので、分からないことがいろいろあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

公開講座の教養総合を開講

4月17日、公開講座の教養総合が開講した。今回のテーマは「不安のア・ラ・カルト」。昨年発行された本学教員による同名の共同執筆本をテキストにして、執筆者本人が連続して講義を担当する。このテキスト発行の経緯については、すでに『市大広報』第48号(2006年2月1日発行)に掲載されている。

講義題目は、「不安」と哲学的人間観、村上春樹に見る「不安」の影、心理学的観点から見た「不安」、現代教育改革と「不安」、「構造改革」不況と不安の時代。それぞれ2～3回ずつ。最終回の7月10日には担当者全員によって全体のまとめが行われる。

本学における公開講座の1つであり、20数名の市民が参加している。第1回目の内容は、新聞の地方版でも報道された。毎週月曜日の第5時限に開講。なお、今年度は秋学期にも教養総合の開講が予定されている。

(コーディネーター 西田雅弘)

「関門地域論」開講

本学の公開講座の一つである「関門地域論」が、今年度も8月下旬の集中講義期間に開講される。この授業は、毎年、「関門地域共同研究会」(本学と北九州市立大学との共同研究事業)の研究報告書である『関門地域研究』を内容として、その執筆陣が講義を担当しているものであり、市民の方に開放されている。今年度は、同報告書第14号(2005年3月刊行)にしたがって、「関門地域の国際(インバウンド)観光振興—中国編—」と「関門地域のベンチャー企業創出・育成に向けた調査研究」の2つをテーマに全12回の授業が予定されている。各回の講師とその講義内容、日時、教室などは本学ホームページに掲載するので、そちらをご覧になっていただきたい。(同報告書の全文は、本学・産業文化研究所ホームページでも見ることができる。<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/sanbunken/html/kyodo.html>)

7月29日は市大の日

～オープンキャンパス2006～

今年のオープンキャンパスは、7月29日(土)に開催される。大学紹介、入試説明、就職状況の説明などの全体説明のほか、模擬講義(経済学科専門科目・国際商学科専門科目・教養科目)、模擬海外研修(英語圏コース・中国コース・韓国コース)、大学院の入試説明・研究発表、産業文化研究所シンポジウムなど多彩なメニューが企画されている。また同日には、市民の生涯学習の新たな機会を提供するものとして昨年より始まった「市民ゼミナール」の今年度の開校式も行われる。

受験生はもちろん、一般の市民の方にも足を運んでいただき、市大のことを少しでも知っていただければ幸いである。なお、詳細は別途パンフレットを作成するとともに本学ホームページに掲載する予定である。

文部科学省公費留学生として留学

国際商学科2年生・織田冨香さんが「中国政府奨学金」試験に合格し、文部科学省の公費留学生に選ばれた。9月から1年間中国の大学に留学する予定である。

○中国政府奨学金留学生試験に合格して

国際商学科・織田冨香

私は、2006年度中国政府奨学金留学生試験に合格し、

文部科学省推薦で中国に長期留学することになりました。この試験の一番の魅力は、国費で中国に留学できることにあります。一次試験は推薦状等の書類審査、二次試験は面接でした。面接の内容は中国語で自己紹介し、研究したい分野について質問に答えるというものでした。浅学のため高度な質問に十分答えることができませんでしたが、興味のある中国の有名な作家・金庸や彼の作品についてひたすら述べました。周りはみな中国語を専門に学んでいる学生ばかりでしたし、しかも私は1年生でしたので、合格通知を見たときは目を疑いました。秋から中国へ長期留学しますが、日中友好の架け橋になるべく勇猛精進していきたいと思っています。そして、今回の国費試験に当たり、課外授業で何度も何度も真心込めて御指導して下さった山田先生、応援を惜しまなかった友人、市大教職員の方々に心から感謝申し上げます。これからも御指導の程宜しくお願い申し上げます。

教員著作目録 (2005年4月～2006年3月)

- 上倉一男：(共著)西田雅弘編『不安のア・ラ・カルト』西日本新聞社、2005.11
- 関野秀明：(共著)西田雅弘編『不安のア・ラ・カルト』西日本新聞社、2005.11
- 高嶋正晴：(共訳)マンフレッド・スティーガー著『＜1冊でわかる＞グローバリゼーション』岩波書店、2005.6.
- 土屋敏夫：(共著)『商品開発と感性(感性工学シリーズ(1))』海文堂、2005.6
- 西田雅弘：(編著)『不安のア・ラ・カルト』西日本新聞社、2005.11
- 濱田英嗣：(共著)松山・松山・虫秋・濱田編『水産学シリーズ148 ブリの資源培養と養殖業の展望』恒星社厚生閣、2006.3
- 平岡昭利：(編)『離島研究Ⅱ』海青社、2005.9
- 山田留里子：(共著)『友誼の花束～スピーチで学ぶ中国語～』武内印刷所、2005.11
- (共著)『童話で学ぶ中国語～二人の王子さま』駿河台出版社、2006.3
- 横山博司：(共著)西田雅弘編『不安のア・ラ・カルト』西日本新聞社、2005.11
- 米田昇平：(単著)『欲求と秩序 18世紀フランス経済学の展開』昭和堂、2005.12

◎『関門地域共同研究』第15号刊行

本学・産業文化研究所と北九州市立大学・産業社会研究所(現：都市政策研究所)との共同研究事業である「関門地域共同研究会」の年次報告書『関門地域共同研究』第15号が刊行された。2005、2006両年度にわたるテーマに「関門地域連携のあり方に関する調査研究」を掲げ、その初年度の研究成果が報告されている。巻頭に「関門地域研究と「ソーシャル・キャピタル」を置き、「関門地域連携の現状と課題」「東アジアと関門地域」「まちづくりと関門地域連携」の三部から成っている。

訃報

本学名誉教授、竹本宏夫先生が4月8日に死去された。先生は1975年本学に着任、94年まで教授として日本文学を講じられた。田植歌の研究で斯界に知られたほか、歌人としても一家をなした。大岡信『新折々のうた7』(岩波新書、新赤版865)に先生の一首が収録されている。

教 職 員 異 動 一 覧

新任教職員

氏 名	担当科目	前 任	着任年月日
奥野佐矢子	助教授	教育原理 広島市立大学	H.18.4.1
杉浦 勝章	助教授	地域政策論 九州経済調査協会	H.18.4.1
金 婷	常勤嘱託講師	中国語 青島大学	H.18.4.1
佐々木幸則	管理課長	資産税課	H.18.4.1
高森 俊明	管理課長補佐	建築住宅課	H.18.4.1
岡本 忠	学生係主事	道路管理課	H.18.4.1
山田 泰史	会計係主事	広報広聴課	H.18.4.1
舟川 修司	会計係主事	環境保全課	H.18.4.1
増田 勝彦	図書情報係主事	いきいき支援課	H.18.4.1
荒石 航	教務係主事	豊北総合支所農林課	H.18.4.1

異動教職員

氏 名	担当科目	異 動 先	異動年月日
衛藤 吉則	助教授	教育原理 広島大学	H.18.4.1
刑 玲	常勤嘱託講師	中国語 青島大学	H.18.4.1
耿 焰	研究員	青島大学	H.18.4.1
村上 治城	管理課長	保健年金課	H.18.4.1
片岡 俊勝	管理課主幹	環境政策課	H.18.4.1
三浦 恭子	教務係主任	環境政策課	H.18.4.1
岡田 清弘	会計係主任	生活支援課	H.18.4.1
高取 恵美	庶務係主事	健康づくり課	H.18.4.1

昇任教職員

氏 名	職 名	昇任年月日
相原 信彦	教 授	H.18.5.1
溝淵 彰	助 教 授	H.18.4.1
山本 隆	主 査	H.18.4.1
谷山 晴彦	主 任	H.18.4.1

退職教職員

氏 名	退 職 理 由	異動年月日
田島 文子	管理課長補佐 定 年	H.18.3.31

行 事 記 録

(2006年1月～5月)

- 1月4日(木) 公務始め
 11日(木) 授業開始
 21日(土) 大学入試センター試験(～22)
 24日(火) 秋学期補講(～26)
 28日(土) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試
 2月1日(木) 秋学期試験開始(～14)
 3日(金) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試合格発表
 16日(木) 第4回就職ガイダンス
 25日(土) 一般選抜前期日程入試(下関・大阪)
 3月7日(火) 一般選抜前期日程入試合格発表
 8日(水) 一般選抜中期日程入試(下関・大阪・福岡)
 9日(木) 一般選抜前期日程入学手続開始(～15)
 18日(土) 大学院(二次)入試
 21日(火) 大学院研究発表会
 22日(水) 一般選抜中期日程・大学院(二次)入試合格発表
 23日(木) 一般選抜中期日程・大学院(二次)入学手続開始(～27)
 25日(土) 卒業式
 4月1日(土) 春季休業開始(～7)
 8日(土) 入学式
 10日(月) オリエンテーション(～11)
 11日(火) 定期健康診断(～18)
 12日(水) 春学期授業開始
 28日(金) 留学生歓迎会
 5月8日(月) 履修確認(～9)

平成18年度年間行事予定

(2006年6月～2007年3月)

- 6月1日(木) 開学記念日

- 6月16日(金) 第1回就職ガイダンス
 22日(木) 入試説明会・学生総会
 7月3日(月) 春学期試験時間割発表
 17日(月) 春学期補講(～21)
 24日(月) 春学期試験開始(～8/4)
 29日(土) オープンキャンパス
 8月4日(金) クリーンキャンパスデー
 第2回就職ガイダンス
 5日(土) 夏季休業開始(～9/30)
 9月16日(土) 大学院(一次)入試
 20日(水) 市民大学開講
 25日(月) 大学院(一次)入試合格発表
 29日(金) 平成17年度春学期卒業式
 30日(土) 就職入門ガイダンス
 10月2日(月) 秋学期授業開始
 履修届提出締切(～10)
 大学院(一次)入学手続開始(～6)
 28日(土) 大学祭(前夜祭)(～31)
 11月16日(木) 第3回就職ガイダンス
 18日(土) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)・編入学入試
 27日(月) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)・編入学入試合格発表
 12月23日(土) 冬季集中講義開始(～1/7)
 24日(日) 冬季休業開始(～1/6)
 28日(木) 公務納め
 1月4日(木) 公務始め
 20日(土) 大学入試センター試験(～21)
 23日(火) 秋学期補講(25, 30・31)
 25日(木) 秋学期試験時間割発表
 27日(土) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試
 2月1日(木) 秋学期試験開始(～14)
 2日(金) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試 合格発表
 15日(木) 第4回就職ガイダンス
 25日(日) 一般選抜前期日程入試(下関・大阪)
 3月7日(木) 一般選抜前期日程入試合格発表
 8日(木) 一般選抜中期日程入試(下関・大阪・福岡)
 9日(金) 一般選抜前期日程・特別選抜(中国引揚・留学生)入学手続開始(～15)
 17日(土) 大学院(二次)入試
 19日(月) 大学院研究発表会
 22日(木) 一般選抜中期日程・大学院(二次)入試合格発表
 23日(金) 一般選抜中期日程・大学院入学手続開始(～27)
 25日(日) 卒業式

窓 口 よ り

◎図書館

1日平均利用者数

年度	平 日	土 曜	日 曜	時刻	16年度	17年度
16年度	262	92	84	19時	23	21
17年度	228	85	74	20時	18	17
				21時	10	11

平日は21時30分まで開館しています。土曜・日曜も開館しています。図書の返却期限を厳守してください。

◎学生係

後期分授業料の減免及び分納の申請受付期間は、7月3日から9月8日です。